

知的障害教育におけるキャリア教育の在り方に関する研究(2)

—教育課程の分析・改善を図るためのツール及び授業の改善・充実を図るためのツールの開発と試行—

○菊地一文 大崎博史 井上昌士 猪子秀太郎 小澤至賢 涌井恵 木村宣孝* 柴田琢磨** 渡部英治*** 木本恭嗣****

(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所) (北海道伊達高等養護学校*)

(北海道星置養護学校**) (島根県立松江清心養護学校***) (静岡県立浜名特別支援学校****)

KEY WORDS: キャリア教育 教育課程 授業改善

1 目的

特別支援学校高等部学習指導要領(H21.3告示)に「キャリア教育」の文言が明記され、特別支援教育においても早期からの組織的な取組による、キャリア教育の推進が求められている。

本研究では、①幅広い実態の児童生徒への適用を視野に入れ、ライフキャリアの視点から「キャリア発達段階・内容表(試案)」の検証及び改善を行うこと、②学校現場におけるキャリア教育の推進及び充実のために「キャリア発達段階・内容表(試案)」の活用のためのツールと実践モデルの提案等を目的とした。本稿では、「キャリア発達段階・内容表(試案)」の活用方策の一つとして、教育課程の分析及び改善を目的とした「単元における観点位置付けシート」、授業の充実・改善を目的とした「授業における観点位置付け・授業改善シート」の試行及び効果の検証について報告する。

2 各シートの概要及び使用手順について

(1) 単元における観点位置付けシートの概要

本シートは、単元レベルから捉えた教育課程の横断的側面及び縦断的側面の把握と改善を目的としている。本シートは、年間指導計画の各単元のねらいに対して該当するキャリア発達段階・内容表(試案)における観点を位置付けるものであり、学部及び指導形態ごとに本シートを集計し、キャリアの観定の傾向を分析することにより、C→A→P→Dサイクルによる教育課程改善が図られると考えた。

(2) 授業における観点位置付け・授業改善シートの概要

本シートは、①各授業の特徴に即したキャリア教育の具現化や②授業のねらいの明確化及び授業改善、③授業レベルから捉えた教育課程の横断的側面及び縦断的側面の把握を目的としている。

本シートは、学習指導案(略案)を活用し、各授業に含まれる本試案の観点を位置付け、授業改善を図り、指導内容のつながりを確認するものである。シートの観定の位置付け欄には、授業の主なねらいに関連した学習活動がキャリアの観点と一致する場合は「主たる観点」として、授業の主なねらいではないが授業のねらいとして含まれる場合は「関連する観点」としてキャリアの観点を記入する。また、気づき欄には、①授業に含まれるキャリアの観点をさらに充実させるための改善方策、②他の指導形態や他学部における指導内容等に反映できると考えられる事項、③家庭生活や地域生活等、生活全般へ反映できると考えられる事項を記入する。この作業によって教員個々の「気づき」を大切にしながらC→A→P→Dサイクルによる授業改善が図られると考えた。

3 方法

これらのシートを研究協力機関等において試行し、その成果と課題について意識調査を行った。

(1) 対象 各シートを試行した特別支援学校及び特別支援学級教員104名(研究協力機関6校、その他、本研究の趣旨に賛同し、ツールを試行した学校)

(2) 調査方法 質問紙による調査(2及び4件法、自由記述で構成) ツールを試行した学校にメール添付により質問紙を送信し、郵送及びアンケートサーバーを通して回答を得た。

(3) 期間 2009年12月

4 結果

(1) 単元における観点位置付けシートについて

本シートの試行による、①キャリア教育の観点をふまえた指導内容の傾向の把握の可否、②気づき、③課題等について回答を求めた結果、①については、「できた」という回答が約50%であった。②については、各単元のつながりの明確化やねらいの傾向の把握、キャリア教育の視点によるねらいの捉え直し等が挙げられた。③については、作業コスト、位置付けの難しさ等が挙げられた。

(2) 授業における観点位置付け・授業改善シートについて

本シートの試行による、①授業に含まれる観定の気づき、②授業の改善方策を考える機会、③教育課程のつながりを考える機会、④家庭生活や地域生活とのつながりを考える機会、⑤気づき、⑥課題等について回答を求めた結果、①については96%が「できた」と回答した。②③④については、それぞれ83%、74%、66%が「はい」と回答した。⑤については、T・T間での授業の目標や手だての共有化、授業におけるキャリアの観定の意識化、ねらいの明確化、作業コストがかからない、取り組みやすさ、各授業間でのねらいのつながり、④の難しさ等が挙げられた。⑥については、教員間のねらいの捉えのズレ、教員による観定の捉えの差異等、教員間の情報共有や合意形成に関する意見が挙げられた。

5 考察

両シートの評価結果の違いの要因の一つとして、作業コストや対象とした「教育課程」「授業」または反映の各視点に対する教員の関心の度合いが推測される。研究協力機関における授業改善シートに基づく授業研究会を通して、教育課程への関心が高まったという回答も見られたことから、各ツールの導入に当たっては、教員にとって身近な「授業」を切り口とすることが、比較的取り組みやすく、負担感も少ないと考える。

今後、これらのツールが教育課程や授業の改善のためのツールとしてだけでなく、具体的作業を通して教員集団のキャリア教育への理解を深め、組織的取組を促進するためのツールとしても活用が図られていくことを期待したい。

文献

国立特別支援教育総合研究所(2010) 知的障害教育におけるキャリア教育の在り方に関する研究 研究成果報告書。
国立特別支援教育総合研究所(2008) 知的障害者の確かな就労を実現するための指導内容・方法に関する研究 研究成果報告書。

(KIKUCHI Kazufumi, OSAKI Hirofumi, INOUE Masashi, INOKO Hidetaro, OZAWA Michimasa, WAKUI Megumi, KIMURA Nobutaka, SHIBATA Takuma, WATANABE Eiji, KIMOTO Yasushi)